

2016年3月8日

野村アセットマネジメント株式会社

「野村テンプレートン・トータル・リターン Aコース(限定為替ヘッジ)、Bコース(為替ヘッジなし)、Cコース(限定為替ヘッジ)、Dコース(為替ヘッジなし)」の基準価額の動きについて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村テンプレートン・トータル・リターン」(以下、ファンド)の基準価額は、2016年3月4日現在、Aコース:10,483円、Bコース: 15,331円、Cコース: 9,598円、Dコース: 11,277円となりました。

以下に基準価額の動きをご報告し、次ページ以降でその背景と今後の見通しについてご説明いたします。

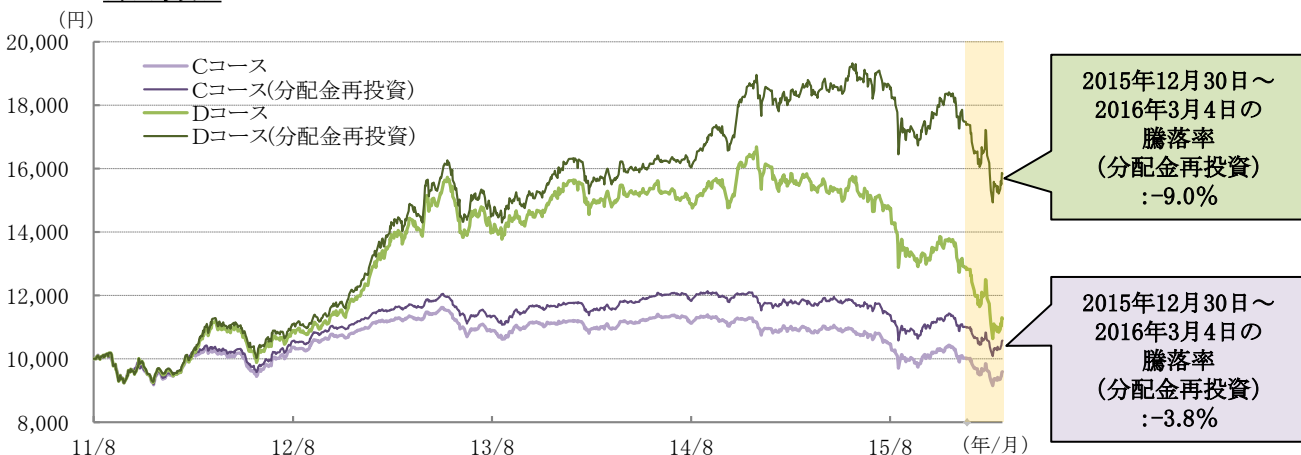
1. ファンドの基準価額の推移(期間:2011年8月11日(設定日)~2016年3月4日、日次)

ファンドの設定来の基準価額の推移は以下の通りです。

年2回分配



毎月分配



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

——— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。———

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2～4ページは、ファンドが投資対象とする外国投資法人「FTIF - テンプルトン・グローバル・トータル・リターン・ファンド」の外国投資証券を運用するフランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の情報に基づき野村アセットマネジメント作成。

2. ポジションについて

ファンドでは、ファンダメンタルズ(基礎的条件)が比較的良好で、実質的な利回りがプラスとなる国の債券や通貨を厳選して投資し、長期的に収益を上げることを投資戦略としています。したがって、相場の一時的な上下で長期的な投資戦略を変えることはありません。

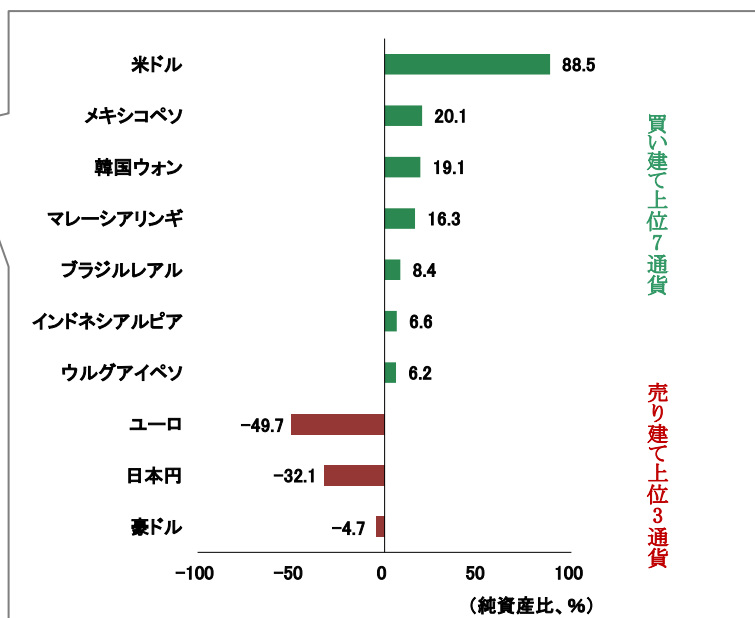
現状、メキシコやインドネシア等、ファンダメンタルズが良好な国や、ブラジルのように必ずしもよい経済状況ではないものの、市場で売られ過ぎていると考えられる国の通貨のウェイトを増やしています。

ファンドの資産内容(通貨別配分)

2016年1月末現在

通貨別配分(純資産比)	
ロング(買い建て)合計	186.5%
ショート(売り建て)合計	-86.5%
ネット投資比率	100%

投資通貨数合計 : 19



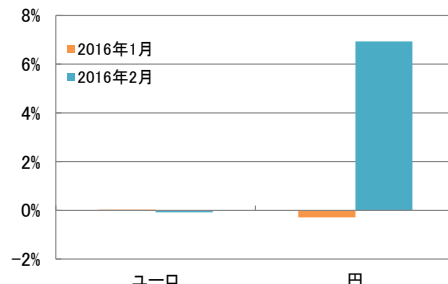
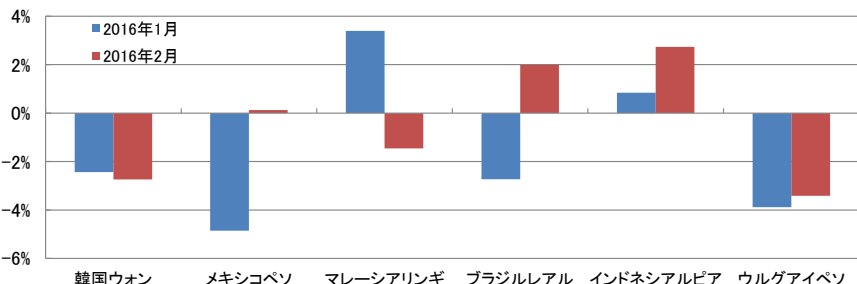
「ファンドの資産内容(通貨別配分)」はファンドが投資対象とする外国投資法人の資産内容です。  
(出所)フランクリン・テンプレトン社の情報提供に基づき野村アセットマネジメント作成

組入上位通貨の騰落率(対米ドル)

期間: 2016年1月～2016年2月、月次

【買い建て通貨】

【売り建て通貨】



(出所) Bloombergデータに基づき野村アセットマネジメント作成

——— 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。 ———

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

### 3. 基準価額の下落要因について

#### <1月の下落要因> メキシコ通貨やアジア通貨の下落等がマイナスに影響

年初から中国の景気減速懸念が再燃したことや、原油価格の下落が続いたことにより、新興国市場が軒並み軟調となりました。特に当ファンドで比較的大きな投資比率となっているメキシコペソや韓国ウォンが引き続き軟調に推移したことが基準価額下落の要因となりました。また、米国10年債利回りが0.3%ほど下落したことも、米国のデフレーションをマイナスに引き下げている当ファンドにとってはマイナス要因として働きました。

月の中盤からは原油価格が回復したことや、下落が続いていたマレーシアリングが反発したことなどで基準価額が上向く場面もありましたが、月間では下落しました。

#### <2月の下落要因> 円高等がマイナスに影響

1月末に行なわれた日銀のマイナス金利採用による追加緩和の反動から、円が月間で約7%ほど上昇し、ファンドの基準価額にとってマイナス要因となりました。また、米国金利についても引き続き下落し、ファンドにとってマイナス要因となりました。月の中旬からは原油価格が回復したことなどから上昇し、月間での下げ幅をやや縮小したものの、月前半の下げ幅が大きく、月間では下落しました。

### 4. 売り建て(ショート)としている通貨の背景について

#### <円> 長期的には米ドル高・円安の傾向

足元の円高基調は、世界経済や中国経済、さらには原油価格動向に対する不透明感から短期的にリスク回避の動きが強まったことによるものと考えており、長期的には米ドル高・円安の傾向は変わらないと予想しております。原油価格下落により差し迫ったインフレ対応の必要性は軽減されてきましたが、米国経済は依然堅調に推移しており原油価格の影響を除いたコアインフレ率の上昇は継続しております。そのため今後数ヶ月以内にFRB(米連邦準備制度理事会)は段階的な利上げに踏み切らざるを得ないと考えております。日本については、安倍政権の維持と財政の健全性維持のために「アベノミクス」は不可欠であり、これを支えるのがQQE(量的・質的金融緩和政策)だと考えられます。QQEは政治的な要請が強いなど、日銀は、現在行なわれているQQEを2017年半ばまで継続すると見られております。金融政策の変更は更なる円高や株安につながることも想定され、現在の緩和的な金融政策を変更することは容易なことではないと考えられます。

#### <ユーロ> 金融政策の追加緩和を示唆

欧州については、本格的な景気回復には至っておらず、今後も緩和的な金融政策を継続させることが見込まれます。欧州圏のインフレ率は依然として低位に留まっており、2月中旬にはECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁が追加緩和を行なうことを示唆する発言をしております。ユーロも2月中一時高騰しておりましたが、中盤からは追加緩和を織り込むような形で下落しており、ファンドの基準価額を下支えております。

このような米国と日本・欧州の経済政策の方向性の違いから、長期的には米ドル高、円・ユーロ安に向かうという見通しに変更はありません。

## 5. 今後の見通しについて

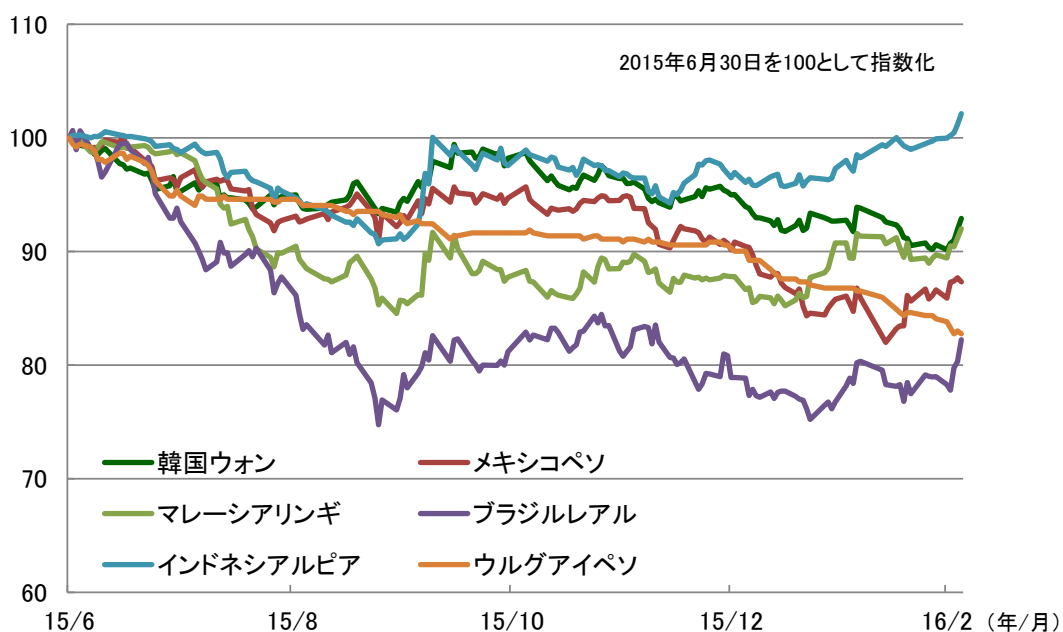
## 一部の新興国の通貨と債券に明るい兆し

今年に入ってから急激な円高がファンドの基準価額に大きく影響した一方で、一部の新興国の通貨や債券には明るい兆しも見え始めております。例えば、昨年末頃より当ファンドでウェイトを増してきたブラジルレアルや現地通貨建てのブラジル債券については年初から堅調に推移しております。またインドネシアルピア、マレーシアリングなどについても、年初来堅調に推移しております。米国への輸出が好調な点など、ファンダメンタルズが良好ながら代替ヘッジへの需要から売られる傾向にあったメキシコペソについても、2月の後半からは上昇基調で推移しております。

原油価格の下落や世界経済の先行きに対する懸念など、不透明な環境が続いておりますが、このような環境では、ファンダメンタルズが良好にも関わらず、売られ過ぎている国の債券や通貨を買うといった信念を持った投資が引き続き重要と考えます。

## 組入上位通貨の推移(対米ドル)

期間: 2015年6月30日～2016年3月4日、日次



(出所) Bloombergデータに基づき野村アセットマネジメント作成

今後とも「野村テンプレート・トータル・リターン」をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

以上

——— 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。 ———

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

## 【ファンドの特色】

- インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行いません。
- 新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等(現地通貨建てを含みます。)を実質的な主要投資対象\*とします。  
※「実質的な主要投資対象」とは、外国投資法人や「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 「野村テンプレートン・トータル・リターン」は、分配頻度、投資する外国投資法人において為替ヘッジの有無の異なる、4本のファンドで構成されています。

	為替ヘッジあり(限定ヘッジ)*	為替ヘッジなし
年2回分配	Aコース	Bコース
毎月分配	Cコース	Dコース

※「Aコース」「Cコース」は、投資する「FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1」において、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同程度程度の米ドル売り円買いの為替予約取引等により、対円ででの為替ヘッジを行なうことを基本とします。

- 各々以下の外国投資法人である「FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を投資対象とします。

ファンド	投資対象とする外国投資法人の円建ての外国投資証券
Aコース	FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1
Cコース	(「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。)
Bコース	FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド Class I (Mdis) JPY
Dコース	(「JPYクラス」といいます。)

- 通常の状態においては、「FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド」への投資を中心とします\*が、投資比率には特に制限は設けず、各証券の収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。

※通常の状態においては、「FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

- 外国投資信託「FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス/JPYクラス」の主な投資方針について■
- ◆新興国を含む世界各国の固定利付および変動利付の債券(国債、政府機関債、社債等。現地通貨建てを含みます。)を主要投資対象として、インカムゲイン、キャピタルゲインおよび通貨の利益を総合した、米ドルベースでのトータルリターンの最大化をめざして運用を行いません。
  - ◆JPY 限定為替ヘッジ・クラスは、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同程度、米ドル売り円買いの為替予約取引等により、対円ででの為替ヘッジを行なうことを基本とします。
  - ◆JPY クラスは、原則として為替ヘッジを行いません。

- 運用にあたっては、フランクリン・テンプレートン・インベストメンツ株式会社に、運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- 「Aコース」「Bコース」間および「Cコース」「Dコース」間でスイッチングができます。

## ●分配の方針

## ◆Aコース、Bコース

原則、毎年5月および11月の13日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。  
分配金額は、分配対象額の範囲内で、利子・配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。

## ◆Cコース、Dコース

原則、毎月13日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。  
分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。  
なお、毎年5月と11月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

\*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

## 【投資リスク】

各ファンドは、外国投資証券等への投資を通じて、債券等に実質的に投資する効果を有しますので、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

## 【お申込メモ】

- 信託期間 平成33年5月13日まで(平成23年8月11日設定)
- 決算日および収益分配 【Aコース】【Bコース】年2回の決算時(原則、5月および11月の13日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。  
【Cコース】【Dコース】年12回の決算時(原則、毎月13日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌々営業日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万円以上1万円単位(当初元本1口=1円)  
または1万円以上1円単位  
自動引き落とし投資コース:1万円以上1円単位  
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌々営業日の基準価額
- スイッチング 「Aコース」「Bコース」間および「Cコース」「Dコース」間でスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合または12月24日である場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。  
・ニューヨーク証券取引所 ・ルクセンブルクの銀行
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 【当ファンドに係る費用】

(2016年3月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社に確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.0368%(税抜年0.96%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 ○実質的にご負担いただく信託報酬率 年1.8868%程度(税込) (注)各ファンドが投資対象とする外国投資証券の信託報酬を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。
◆その他の費用・手数料	組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依りて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

## 【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元金は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

◆設定・運用は

## 野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会/  
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎ 0120-753104

(受付時間)営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★

<http://www.nomura-am.co.jp/>



★携帯サイト★

<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券などの値動きのある有価証券等に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

# 野村テンプルトン・トータル・リターン<Aコース/Bコース/Cコース/Dコース>

## お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○			
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○			
株式会社関西アーバン銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第16号	○		○	
常陽証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1771号	○			
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。  
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。